

タイトル：平成 30（2018）年度 教育セミナー（第 14 回）

日時：2018 年 9 月 13 日（木）～16 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

「ミールザー・ハビーブ・エスファハーニーによる翻案作品

『ハージーバーバーの冒険』から見る近代批判精神の発露とその展開」

木下実紀（大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻博士前期課程 2 年）

私は去年もこの教育セミナーに参加させていただいておりましたので、今年で 2 回目の参加となりました。去年参加したときから、来年は自分も発表しようと心に決めておりましたが、改めて参加して良かったと思っております。というのも、今まで他の様々な研究会にも参加しておりましたが、このセミナーが最も多く、そして質の高いコメントをいただけるからです。先生方は発表に対して本気でコメントをしてくださります。修士論文の構想をベースとした発表に対するコメントだけでなく、博士後期課程に進もうとしている私に対して、今後の研究の見通しに関してもアドバイスをいただき、大変感謝しております。一時間強ある発表とコメントの時間に加え、懇親会や休憩時間にも、大変有効な助言や、関連資料の紹介、私の研究に関する議論、そして修士論文の執筆を励ましてくださる言葉もいただき、本当に充実した時間となりました。

また、昨年参加した際にも思ったことですが、普段自分が置かれている環境では中東やイスラームを研究している大学院生がほとんどいないため、全国各地そして海外から同じ関心を持って集まった方々と知り合うことができ、大変貴重な機会となったと思います。また中東やイスラームという言葉でひとくくりにしても、様々な地域や専門分野があります。地域では、アラビア語圏はもちろん、イラン、トルコ、パキスタン、中央アジア、東南アジアと多岐に渡り、更に学問領域では歴史学、人類学、ジェンダーや移民研究などの社会学、文献学など、非常に多様な研究のお話を聞くことができ、これがこのセミナーの最大の特色であると言えると思います。自分にとって未知の領域を研究されている方のお話は大変勉強になり、知見を深めることができました。

今回のセミナーで得たものを、まずは修士論文に活かし、そして今後の研究生活でも役立てられるように、精進してまいりたいと思います。

最後になりましたが、本セミナーを企画・運営してくださった東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の先生方、そして千葉様をはじめとするスタッフの皆様、四日間大変お世話になりました。本当にありがとうございました。